

入選

お父さんの小さなやさしさ

福井県 武生西小学校

2年 鈴木瑠彩

「ママ、かみの毛が前よりも生えてきたんじゃない？よかったね。」

それは一年前、入院中だったお母さんにひさびさに会ったとき、お父さんが明るい声で話しかけた言葉でした。お母さんは、「本当？やったあ、ありがとう。」と言っていたけれど、わたしにはお母さんのかみの毛がふえたようには見えません。どうしてかと言うと、車いすをおしながら頭のてっぺんが丸見えで、かみの毛がうすくて地はだもはっきりしていたからです。

「なんでパパは、ふえてもいないかみの毛を見て、生えてよかったねと言ったんだろう？どうしてそんなうそをついたんだろう。」とふしぎでたまりませんでした。

お母さんもかみの毛がうすくなっているのを気にしていたし、入いんする前は、

「かみの毛がぬけてきちゃったなあ。ママ、はげてるよね？正直におしえてほしいな。」

と聞かれたので、お兄ちゃんや妹と同じように、「めっちゃはげてるよ！」と伝えると、お母さんは、かなしげな顔をしてだまりこんでいました。

いつも、「うそはつかないでね」と言っていたお母さんだけれど、わたしたち兄と妹がほんとうのことを話せば、顔色をかえてムスツとするし、お父さんがうそをついたりゆうも聞けませんでした。だけど、お母さんの2度の手じゅつがおわって、弟のれおくんが生まれて一年後の今、

「どうしてパパは、はげているママにかみの毛が生えてきたと言ったんだろう。」

とお母さんにふと、聞いてみたくなりました。

「きっとね、パパはママのかみの毛のことを気づかって、ママがきずついてないてしまわないように、言ってくれたんじゃないかなあ。だから、パパはうそをついたわけじゃないんだよね。ただ、人をよろこばせて、はげます言葉の力ってすごくてね。『ことだま』っていうのがあるように、口にすることが言葉にやどる、信じているものがよくもわるくも本当になったりする。ほら、だからパパの言っていた通りに、かみの毛がフサフサに生えてきたでしょ？」
とわらいながら話してくれました。

人を思っただれかのために、はんたいに苦しんでいる人が勇気をもらったり、そのことだまの力でねがいがかなったりするなんてあるんだなあ、とおどろきました。

まだわたしには、言葉の力はよくわからないけれど、まわりにこまっている人や今にも泣きだしそうな人がいたら、はげましてささえて、やさしくしてあげたいです。